

地域と共にいきいきと活動する子の育成

おい町立佐分利小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	8回 8日

(2) 地域人材の活用

講師・ゲストティーチャー	15人
授業ボランティア	5人
登下校支援ボランティア	17人
その他（読み聞かせ等図書ボランティア）	3人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

「農作物作り体験活動と収穫祭」

本校では山や田畑など豊かな自然に囲まれている恵まれた環境を生かして、田植え体験や野菜作り、きのこ栽培などを地域・学校協議会委員や地域の方にお世話になりながら進めている。

今年度も地域・学校協議会委員の方の田をお借りして5月に田植え体験を全校で実施した。苗の植え方や米にするまでの世話の仕方を委員の方や地域の方に教えてもらってから実際に田んぼに入った。泥から足が抜けなかったり尻もちをついたりしながらも楽しく植えることができた。毎年行っているのでも、学年が上がるほど植えるのが上手になっている。

5年生は田植え体験と同時にバケツ稲を栽培し、総合的な学習の時間に米になるまでの学習を進めている。2学期には、できた藁を使ってしめ縄作りを地域・学校協議会委員の方に教えてもらった。

総合的な学習の時間や教科の時間を使って、学校にある農園でどの学年も野菜を栽培している。今年度は、1・2年生はサツマイモ、3年生は大根、4年生はかぼちゃ、5年生はインゲン豆、6年生はジャガイモを栽培した。また、毎年、椎茸の菌うちやかんたけ栽培も実施している。

米や野菜を収穫した喜びを全校で共有するために11月には収穫祭を実施した。収穫祭には穫れた米を使っておにぎり、野菜やきのこを



使って味噌汁を作り、いつもお世話になっている地域・学校協議会委員の方や登下校支援のボランティアの方も招待して一緒に食事をした。

食事の前には、2年生が収穫を祝う御神輿を担いで参加者の周りを練り歩いた。5年生は総合的な学習の時間に進めてきた米の学習の発表を行った。

収穫祭の後、第2回地域・学校協議会を行ったが、その中で委員の方から、

- ・収穫祭は佐分利の地域性にあっていてとてもよい行事である。
- ・御神輿や米の発表は全員が活躍しており、明るくはきはきと発表できている。
- ・米についてよく調べてあって感心した。

など、お褒めの言葉をいただいた。また、招待したボランティアの方にも、学校や児童の様子を見てもらったり触れあったりする機会がもてて喜んでもらった。

3年生は総合的な学習の時間にお茶について調べ学習をしている。学校にある茶の木で茶摘みをし、地域の方に教わりながら揉んだり乾燥させたりしてお茶を作った。できたお茶はいつもお世話になっている地域の方といっしょに飲んだり、家に持って帰ったりした。お茶の学習の一環として、地域の方に作法を教わって抹茶体験学習も実施した。調べ学習の内容や抹茶教室で教えていただいたことを全校に発表した。

成果と課題

- ・山や田畑に囲まれているという恵まれた自然を生かした学習を進めることができ、地域・学校協議会委員や地域の方、保護者の協力を得て、田植え、野菜作り、藁細工作り、お茶作りなど有意義な体験学習が実施できた。
- ・体験学習や収穫祭を実施することにより、児童は地域のいろいろな大人の方との交流を深めることができた。
- ・地域の方や保護者の方が積極的に講師やボランティアとして児童の活動に参加していただけるようになった。
- ・地域・学校協議会があることにより、地域の声が直接学校にも届くようになり、児童の指導に生かすことができた。また、意見交換をする中で地域での児童の様子や学校での児童の実態や課題等について情報を共有することができた。
- ・今年度から新学習指導要領が完全実施となり、総合的な学習の時間の授業時数が減っている。体験学習や収穫祭は有意義であるが、授業時数確保との兼ね合いが難しくなっている。取り組みの精選が必要である。